

# 時標

レミオロメンを結成した20代、ソロで活動しはじめた30代、そして、「不惑」の40歳を前に、今年独立を果たした。さらに10月7日、ふるさと山梨で、私自身が主催する野外音楽フェスの開催を決めた。タイトルは「Mt.FUJI MAKI」(マウント・フジマ

キ)。「Mt.FUJI」と藤巻亮太の名を掛け合わせた名前は少し大げさかもしれないが、もう後には引かない、息長くふるさとにコミットしていくという覚悟を込めたつもりだ。尊敬するミュージシャン、一人一人に自分で電話をか

け、メールを送って想いを伝えるところから、地道な準備を重ねてきた。その過程で、宮沢和史さん、川口市出身の出演を快諾してくれたアーティストの方々をはじめ、たくさんの人に支えられて今の自分があることにあらためて思い至った。

今年7月、世界文化遺産登録から5年たった富士の名前を冠に頂くのだからこそ、敬虔な気持ちで自身2度目の富士登山に臨んだ。山頂に着いたのは、夜明けの1時間前だった。闇の中に、ご来光を待つ人びとのヘッドライトの明かりが揺れていた。私が登山の魅力に目覚めたのは29歳での初めての富士登山、そしてアルピニスト野口健氏との出会いがきっかけだった。氏のガイドで、ヒマラヤを皮切りに、国内外のさま

## 闇の一步先に光 登山も音楽も



藤巻 亮太  
ミュージシャン

ざまな山に登った。物理的に遠い場所へ行くことで、20代を走り続けた中で感じていた悩みや葛藤を客観視し、自分を見つめ直すことができた。そんな中でも、ふるさと山梨への想いは常に特別だった。いつもと違う角度から新たにものを考えたいと思うと

きには、車を走らせて帰ってきた。家族や仲間と語り合う時間は、安らぎとともに新たな気づきの場であった。そして甲府盆地を照らしながら南アルプスに沈んでゆく夕日が人生で一番好きなものの一つだ。春は桃の花が咲き誇り、夏には甘い果実が実る。

秋はぶどう棚が紅葉し、冬はプレッシャーは多分にある。山々が純白に染まる。暮らしているときには当たり前のように感じていた山梨の四季の風景が、私の音楽の原点なのだ。ただ、その山梨も確実に変化がおきている。地方都市では昔ながらの商店街がシャッターを下ろし、郊外に大型店が軒を連ね、日本全国どこへ行ってもよく似た町並みになりつつある。山梨もその例外ではない。だからこそ、今、あらためて山梨に向き合い、ここにしかない魅力を発見したい。山梨の良さを発信したいという素直な思いがずっとなっている。「Mt.FUJI MAKI」は県内外から大勢の人々があつまり、素敵な交流が生まれたらと願っている。

もちろん、主催する私には、プレッシャーは多分にある。ただ、夜明け前の世界が一番暗い。けれども、怖れや不安を乗り越えて暗闇に入る覚悟を決めたならば、出来ることは、一步一歩前に進むことだけだ。右足を前に出すように「自分の頭でものを考え」、左足を前に出すように「絶えず周囲から学ぶ」。そうしているうちに、いつしかは必ず光が差すと信じている。そしてその光は同じ想いで山道を歩く仲間の姿を照らすだろう。いまはヘッドライトに照らされた山肌しか見えていないかもしれない。しかし仲間

ふじまき・りょうたさん 1980年笛吹市(旧御坂町)生まれ。2000年に同級生3人でレミオロメンを結成し、「3月9日」「粉雪」などヒット曲多数。12年2月にレミオロメンの活動を休止しソロ活動開始。野外音楽フェス「Mt.FUJI MAKI」を山中湖交流プラザきららで開催予定。

2018. 8. 11